



## カナダに出掛けて

カナダ友好協会宇部 河 本 隆  
(2006.02.01)

クリスマスから正月にかけて、カナダへ出掛けて来ました。長女は10年近くも前にフレンドシップ大使としてカナダへ出掛けていますが、他の家族はカナダに出掛けるのは初めてです。カナダにはイエローナイフと言う、世界一オーロラの出現率が高い町があります。イエローナイフはバンクーバから1時間半のエドモントンで飛行機を乗り継ぎ、更に1時間半先の北緯60度から北のノースウエスト準州の州都です。

2002年に私たち家族はオーロラを見るためにフィンランドへ出掛けましたが、滞在中に見る事が出来ませんでした。今回はオーロラリベンジとカナダを体感する為に、出掛けました。

今年は現地も異常気象と言うことで、気温が下がらずそのために水蒸気が発生し雲となって空を覆っていました。更にその雲が地表の放熱を妨げ、温度上昇を招く悪循環を起しているようです。例年だと-30℃近く下がる気温も-10℃付近を前後しています。オーロラは雲のない晴れ渡った夜空でしか観測できません。

結局、4夜の観測中に雲が切れたのは僅か10分間で、オーロラを見るという目的は達成できませんでした。



路上の温度計

氷点下のイエローナイフでは、雪が結晶の状態で降ってきます。積もった雪の表面を取って良く見ると、雪印のマークのような結晶を見つける事ができます。雪はドライでサラサラしており、雪ダルマを作るのに一苦労します。戸外に放置したバナナやトウフで、釘を打つ事ができませんし、シャボン玉も一瞬にして凍ります。



凍ったシャボン玉

日中は町へ出て現地の人たちと色々交流を図りました。ここでは北方インディアンの諸族とヨーロッパ系移民の文化が混じり合い、私達の描くカナダとは違ったもう一つのカナダが在るようです。小さな町なので（人口4万人）皆さん顔見知りが多く、新年を前に「HAPPY NEW YEAR!」の挨拶を会う人毎に交わしていたのが印象的でした。日本人の感覚では、「HAPPY NEW YEAR!」は元旦午前0時を過ぎて使われますが、現地ではクリスマスの頃から使われていました。クリスマスと言うこともあって、現地の公共図書館は閉館していました。案内板には英語、フランス語それに日本語も併記されており、便宜を図っています。

到着の翌日26日はボクシングデーで、ショップはディスカウントセールをやっていました。20%~50%のディスカウントは魅力です。12月26日とボクシングとの関係が判らず尋ねて見ました。ボクシングと言うのは拳闘のボクシングではなく箱のボックスから来ている言葉で、クリスマスに働いてくれた使用人や郵便配達の人に箱に詰めたプレゼントを贈る習慣から来ている

ものです。現在ではクリスマスセールの売れ残りや、年末の在庫一掃セールが開催されています。日本にはない習慣です。クリスマス明けで、閉まっていたショップも結構ありました。

町にはスーパーが1軒あり、スーパー好きの私は早速調査に出掛けました。肉はほぼ日本並の値段ですが、大きな塊で売っていました。魚はサーモンがある位で殆どありません。山奥なので生魚は入手困難なのかも知れません。野菜は日本並の品揃えですが、量が少なく鮮度もあまり良くありません。果物は豊富です。山奥と言う地域性やクリスマス明けと言った時期の関係があるかも知れません。



野菜も果物もパックに入っておらず、いだけ取ってレジに持っていく方式です。(外国ではごく普通の光景です。何故、日本はパックに詰め、ラップを掛け、ビニール袋に入れるのでしょうか?) パン、調味料、お菓子、アイスクリームの類はご多分に漏れず種類が豊富で、色彩が鮮やかです。販売ロットも大きく、でか袋、ケース売りはごく普通です。



買い物のスケールもちょっと違います。キャスターの上下2段が山盛り一杯、そして2台分の食料品です。聞けば1週間分だそうで、家には大型の冷蔵庫と専用の冷凍庫があるそうです。それにしても家族4人分にしては、ちと多いのでは？

カナダで一番困った事はコインの扱いです。日本では価値と見栄えが大体比例していますが、カナダコインは少し違うような気がします。また同一価値でもデザインが異なったり(25St.. コインなんか財布の中だけで4種類もありました)、コイン上の価値表記が小さかったりで、一体このコインはいくらなのかが即断できません。買い物の際は面倒なので、つつい紙幣で払いお釣りを貰います。すると、さらにコインが貯まります。苦肉の策が、財布の中のコインを手のひらに広げて「どうぞお取下さい」と差し出す方法です。これが、案外うまく行きました。カナダの人達はとても正直です。

カナダは多文化国家だと聞いていましたが、町を歩いても空港でも多くの人種を見かけます。さながら原住民の人、白人、黄色、黒人と雑多です。ただ黒人の方は少なかったような気がします。以外に多かったのは東南アジア・インド系の人です。違いは、私たち(私だけかも知れませんが)が、外国の人を見るような興味本位や奇異な眼では見るのではなく、自然に受け入れていると言うことです。私が町に出る格好は、髪はバサバサ、髭ボウボウ、薄手の普段着にジーパン、ズックです。手袋はわざとしませんでした。現地の人あまり手袋をしていないからです。こうすれば、町の雰囲気ピッタリ溶け込んで・・・、でも、日本人の観光客から道を訪ねられました。「御主、見破ったな!」所詮、生まれは隠せません。



カナダの治安は非常によく、町に1人で出ても全く不安は感じませんでした。氷点下の気候のためかどうか判りませんが、野良犬、野良猫の類は一切見かける事はありませんでした。

住宅は非常にこじんまりとしていて、小さいけれど小ざっぱりしています。私の家も決して

大きくはありませんが、カナダの人たちはよくあんな小さい家で生活しているなと思いました。映画で観る邸宅とはちょっと違っていました。中を覗いてみたい衝動にかられました。日本のように塀で囲まれたり庭木で隠されたりしていない分だけ、余計に小さく見えるのかもしれませんが。

一番感心したのは、カナダの人たちは交通ルールをととても良く守っている事です。四方が見渡せる交差点でも、一旦停止の標識があればたとえ車が見えなくても、皆さん必ず停止します。日本のように減速したまま交差点に突入する事はありませんでした。只1台だけ完全停止しなかったドライバーは、現地ガイドの日本人でした。

又、何処で道路を横断しようとしてもその素振りを見せると、必ず止まってくれます。私なんかは自称「中年暴走族」なので見習う点は多々あります。

横断歩道の信号は、ポールに付けられた釦を押さないといくら車用が青になっても歩行者用は青になりません。車用は時間で自動的に変わりますが、歩行者は横断の意思表示をしないと変わらないのです。釦をおさないと何時まで経っても渡れません。

イエローナイフの高速道路は無料です。話によるとカナダでは高速道路の料金は無料か有料でも数十円だそうです。高速道路と言ってもただの田舎の雪道で中央分離帯もありますが、日本と同じく駐車・停車は違反だそうです。それと救急車を見かけませんでした。消防車も見ませんでしたね。日本ではないことです。

トロントからナイアガラへ向う高速道路では、日本にはない通行レーンがありました。それは2人以上乗っていないと走れないレーンで、公共交通や相乗りを推奨して環境配慮をしている証だと思います。



メインストリート

車と言えば、日本と違った点に気付きました。極寒のこの地方の車には駐車中のエンジンの凍結を防ぐ為に、エンジンルームに電気ヒータを積んでいます。フロントのラジレターグリル付近から電気のプラグを覗かせています。スーパーやホテル等の駐車場には電気供給のポールやコンセントがあり、長時間の駐車の際にはここから電気の供給を受けて、エンジンを温め凍結を防止します。それにカナダの車は後側にしかナンバープレートがありません。従って、前側は付いていないか、お好みの飾りプレートを付けています。ナンバープレートも変わっています。イエローナイフのあるノースウェスト準州のプレートは白熊の形をしてとても愛嬌のあるプレートです。日本では考えられないことです。



給電中の車



白熊のプレート

イエローナイフにはアイスロードと言う、冬場だけ出来る道があります。イエローナイフは巨大な湖グレート・スレイブ湖に面しており、対岸には有名なダイヤモンド鉱山があります。対岸まで行くには大回りしなければなりません。しかし冬の3ヶ月間だけ厚く張った氷の上に道路が開設され短時間で対岸まで行けます。氷の厚さは1から1.5mで、大型トレーラが列を成して対岸へと1年分の資機材をピストン輸送します。道路と言っても、氷上の所々にポールがたっているだけで、氷上をほぼ真っ直ぐに延びています。氷は透明度が高く、厚さ1mでも



アイスロード

下が黒く見渡せます。時々ひびが入るそうですが、ひびにしみ込んだ水が氷結して自然復旧するそうです。

ナイアガラにも行きました。ナイアガラの近くの空港はトロントで、バンクーバから飛行機で5時間です。同じカナダ国内ですが時差が3時間もあります。従ってバンクーバからトロントまで8時間、逆にトロントからバンクーバまでは2時間で着くことになります。札幌から福岡までが2時間少々、成田から香港までが4時間ですからちょっと外国へ出かける気分です。国内移動で十分、時差を感じる事ができます。因みに機内食は出ません。機内では5\$でホットドッグを売っていました。

冬のナイアガラは各種のアトラクションが閉鎖されてちょっと残念でしたが、その代わりニューイヤールのイベントが各所で行われており、十分に楽しめました。お勧めはヘリコプタを利用した上空からのナイアガラ鑑賞です。飛行時間は僅か10分少々ですが、ダイナミックな展開を楽しむ事ができます。旋回する時など、機体が傾きますので、結構、スリルがあります。ナイアガラの滝はアメリカ滝(左側の水煙のたっていない方)とカナダ滝(右側の水煙のたっている方)の2つの滝からなっています。滝の少し下流にはレインボウブリッジと言うカナダとアメリカを結ぶ橋が掛かっており、私たちは歩いて渡りました。中央がカナダとアメリカの国境です。橋の両端にはそれぞれの国の検問所があります。この光景も日本では見る事のできなものです。ユーロ圏では国境は道路に線が引いてあるだけで検問所はなく、国境のイメージはありませんでした。

滝を最初に下ったのは63歳の女性教師アニー・テラーさんで、1901年10月に飼い猫と一緒に櫓のワイン樽に入り降下した後無事に生還しました。スカイロンタワー下の劇場で、当時の映像や樽の実物を見る事ができます。ジャーニー・ビハインド・ザ・フォールズと言う滝に掘られたトンネルからは、滝を裏側から見る事ができます。目の前をゴウゴウと水が下り落ちて行きます。ナイアガラは観光地化が進み、丁度ラスベガスの雰囲気です。市内には遊園地のような通りがあって、両側にアトラクションハウスが並びます。カジノも2軒在って24時間営業しています。



今回の旅行で、感じた事を1件。出入国審査の係員の愛想の差です。日本では真面目くさった役人が、笑顔一つ見せることなく事務的に処理をしています。カナダ(他の国でもそうでしたが)の審査官はお客様を迎えていると感じさせる対応です。ユーモアにとんだ会話や対応に心とむ感があります。日本の審査官も見習ってもらいたいと思います。

帰りバンクーバ空港で、見覚えのある「慌てて駆けるセールスマン」のモニュメントを見ました。長女がフレンドシップ大使で出かけた時に写真に撮って帰っていました。長女もずっと以前に、この場所にたって写真を撮っていたのだなと時間を越えた親近感を覚えました。



自宅へのお土産は定番のメイプルシロップ、サーモン、クッキー、アイスワイン等々で、現地のスーパーで調達した各種の香辛料もあります。サーモンもアイスワインも全てお腹に入ってしまった。メイプルシロップは1リットルのボトルを買いましたが、もう殆ど残っていません。



今回、私が体験したのはカナダのほんの一地方の光景です。フレンドシップ大使が訪れるバンクーバーと違っているかも知れません。でも、日本にはない多くの良いところを体験できました。日本を出るたびに、日本の良い所、見習わないといけない所が見えてきます。フレンドシップ大使のように小さいうちから海外に出掛け、このような体験を通じて、真の国際人が育ってくれる事を願っています。

